

経営比較分析表（平成28年度決算）

岐阜県 各務原市

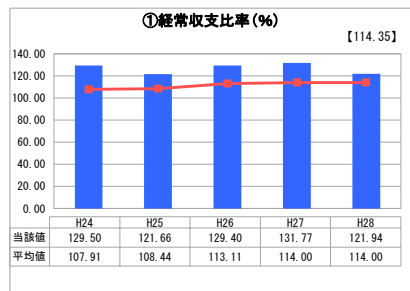
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A3	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	84.83	98.95	2,386	

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
148,593	87.81	1,692.21
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
146,713	87.81	1,670.80

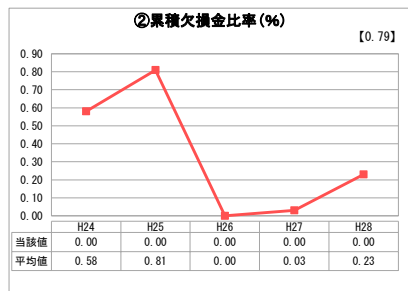
グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 平成28年度全国平均

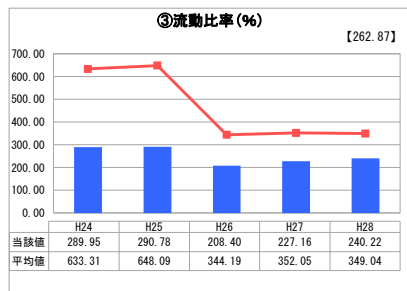
1. 経営の健全性・効率性



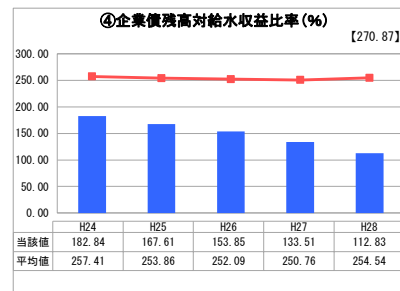
「経常損益」



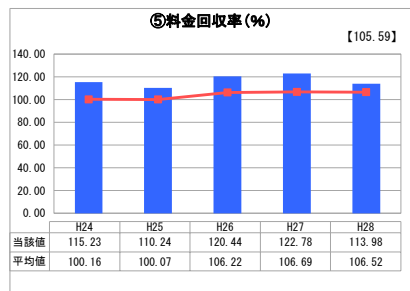
「累積欠損」



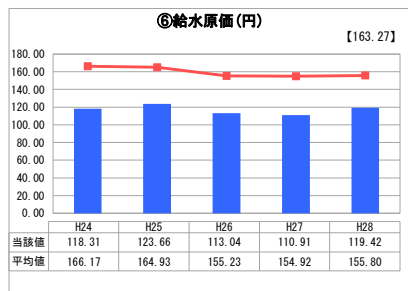
「支払能力」



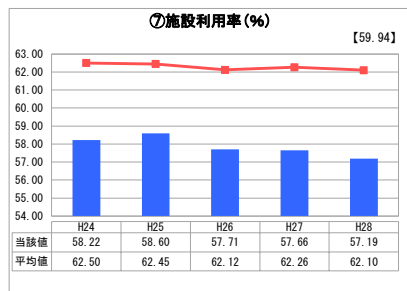
「債務残高」



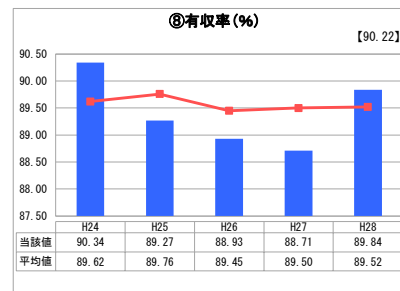
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

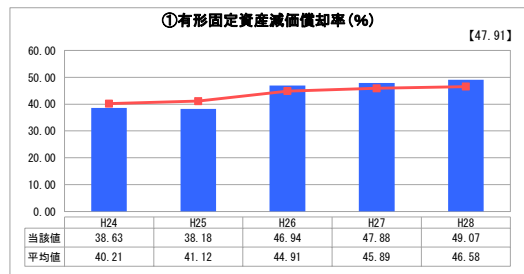


「施設の効率性」

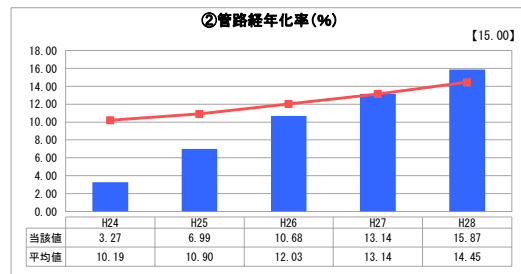


「供給した配水量の効率性」

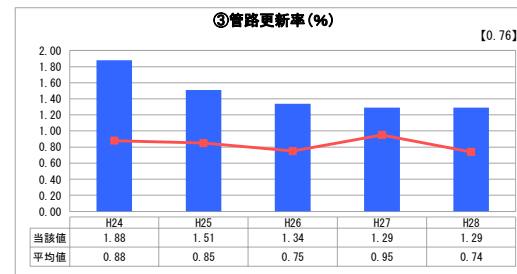
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

人口減少等を背景とした給水収益の逡減を鑑み、本市では、費用を抑制した予算策定を行っていることから、給水原価は類似団体平均対比で、抑制された水準を保持している。

本市では、効率的な事業経営により、安定的な黒字が維持され、資本的収支の不足に対しても、十分な補てん財源が確保されていることから、企業債の返済が進み、企業債残高対給水収益比率は、年々低下している。

施設利用率は概ね同水準で推移している。季節により需要に変動があるため、余裕を持った施設稼働を行っている。

2. 老朽化の状況について

法定耐用年数を超過する管路が増加していることから、有形固定資産減価償却率や管路経年化率が上昇している。また、断層直下型地震への備えから、耐震化工事を優先して実施しているため、数値上の管路更新率は、管路更新基準に比べ、若干低めに推移している。今後、平成27年度に実施したアセットマネジメントの結果等に基づき、計画的な管路更新を図る。

全体総括

収益性や財務の健全性は良好であり、安定的な経営を維持している。人口動態やライフスタイルの変化により、継続的な給水収益の減少が見込まれることから、引き続き費用の抑制を図りながら、安定的収益確保と健全財政維持に努める。

管路や施設については、老朽化が進む中で適正な更新投資を実施している。特に耐震化に係る取組みについては、平成31年度末に管路耐震化率33.4%、平成32年度末に浄水施設、配水施設耐震化率100%を目標に、引き続き計画に基づいた更新投資を行い、安定的な事業運営を図る。

※ 平成24年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。